

人間科学研究科の教育目標及び各ポリシー

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、人間科学研究科は1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。平成28年度からはその目的をさらに高いレベルで実現するために、本研究科ならではの学際性を活かして、共生学という学問分野を創設しています。

その目的の実現のため、

- 学際性：文系・理系という従来の専門分野の枠にとらわれずに横断的に思考し、多彩な学問領域の方法と成果を統合させ、教育・研究に取り組むこと。
- 実践性：実験・調査・フィールドワークという〈知〉の技法を洗練化し、現場と密接に結びついて研究課題の解明を希求する、問題発見・解決型の教育・研究に取り組むこと。
- 国際性：グローバル社会の中でも、〈知〉を創造するリーダーシップを発揮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをより深化させていくこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。博士前期課程では、高度な専門性を持つ職業人の養成や、博士後期課程に進学し研究者となるべき基礎の習得を目指しています。博士後期課程では、学位を取得して、研究者や大学教員となるための資質を涵養します。

人間科学研究科の教育目標及び各ポリシー

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、人間科学研究科では、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的とし、学際性、実践性、国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与します。

- 日本及び国際社会に貢献する学際的で幅広い知識を十分に身につけている。
- 行動学、社会学、人間学、教育学、共生学のいずれかについて高度な知識を体系的に理解している。
- 現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応えようとする意欲を持っている。
- 自ら設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどによって解決する実践的能力を持っている。
- 自ら設定した課題についての専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる研究スキルを修得している。
- 自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持っている。

人間科学研究科はこれらの学生を、博士前期課程では高度な専門知識を備えた職業人として、博士後期課程では高度な専門知識に加えて、学際的かつ柔軟な視点を持つ専門研究者として学位を認定します。

人間科学研究科の教育目標及び各ポリシー

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーを受け、人間科学研究科は、現代という未曾有の転換期に生きる、人間と人間が営む社会がかかえる諸問題を解決するために、グローバルな視点とローカルな知を融合する研究と実践をおこなうカリキュラム構成になっています。

○「人間科学専攻」の下に設置された4つの学系（行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系）を横断する知の獲得が可能となるように、共通科目群を設定するとともに、学系相互の科目群を履修することを推奨するカリキュラム構成となっています。

○学系の下に設置された8つの大講座（人間行動学、行動生態学、社会環境学、基礎人間科学、臨床教育学、教育環境学、未来共生学、グローバル共生学）においては、それぞれに高度な専門性を発達させるための系統的プログラムが用意されています。

○科学的・実証的・統計的なアプローチ、並びに人文学的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化し、総合的に学ぶことを可能にするカリキュラムを提供しています。

○幅広い学問領域の素養や、大学院学生にふさわしい教養を涵養するための高度副プログラム及び高度教養プログラムの授業を受けることができます。

博士前期課程と博士後期課程の一貫教育を基軸としています。博士前期課程では多様な講義・演習を履修しつつ修士論文を完成させます。博士後期課程では博士論文の完成を目指して、個々の研究課題に取り組むとともに、その取り組みを促進する特別演習・特別研究を履修します。

リーディング大学院（超域イノベーション及び未来共生イノベーター）の2つプログラムの科目にも参加することができます。

人間科学研究科の教育目標及び各ポリシー

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

大阪大学のアドミッション・ポリシーを受け、人間科学研究科は、人間や社会の全体的把握を目指す、総合科学としての人間科学に、より高い学術的な水準と、深遠な社会的意義を付加するために、1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足しました。人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。このような社会的要請に応えるため、下記のような基礎学力や研究力を有する者を求めています。

- 博士前期課程の一般入試では、各分野で必要な専門知識、英語能力、研究計画・実施能力を筆記試験と口述試験で選抜します。
- 博士前期課程の社会人特別入試では、各分野で必要な専門知識と研究計画・実施能力を筆記試験と口述試験で選抜します。
- 博士後期課程の一般入試では、各分野で必要な高度な専門知識、外国語能力、研究計画・実施能力を筆記試験と論文審査で選抜します。
- 博士後期課程の社会人特別入試では、高度な研究計画・実施能力を、研究計画書及び修士論文、研究論文に基づく論文審査で選抜します。

人間科学研究科では、学際性・実践性・国際性を柱とする教育プログラムを充実させてきました。

博士前期課程では、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲、並びに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる能力を身につけたいと希求する学生を強く求めています。

博士後期課程では、博士前期課程からの進学者を対象とするだけでなく、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探求する素地を持つ学生を積極的に受け入れます。同時に、高度な語学力、異領域へ強い関心や多彩な職業経験を有した者など、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりや深化を希求しています。